
るう ~ ぶL P

春野夜風

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

るうくぷるP

【Nコード】

N2970H

【作者名】

春野夜風

【あらすじ】

何か物凄いお姉ちゃんが何か凄いです。

それは永遠に終わらないLoopの物語。

始まって、途中からまた始まりに戻る物語。

終わりはいつ訪れるのか。

そもそも、終わりはあるのか。

「ああ！ またデータが消えてるう……」

始まりに大層なこと言ってますが、ゲームがクリアできないだけです。理由は多々ある。

「弟くん！ また乱暴に扱ったの!？」

我が愛しの弟くんが大切に扱わないためにデータが消えたり、

「違うよ！ お姉ちゃんが進めなくなっただけで言っただから進め方を調べてたら、お母さんがコードに足を引っ掛けて、ゲームが消えちゃったの……そしたらデータが……うう……ごめんなさい……」

お母さんがよく足を引っ掛けるのだ。

「ああ……泣かないで。ごめんね。お姉ちゃんが悪かったよ。弟くんは1回注意したらもうしないよね。お母さん!」

あちゃー、やっちゃったあ……よく考えたら弟くんがする筈がないなのに。でも、泣き顔の弟くんも可愛い! 食べてもいいですか!？ 包容!

「ん？ どうしたの？」

「のあ！ お母さん！ びっくりしたあ…。それより！ またコー
ド蹴っ飛ばしたって聞いたわよ！」

急に出てこないでよ！ もう少しで弟くんをいただきますできた
のに！

「それは謝るけど、まずは涎を拭いたら？」

私としたことが涎を垂らしていたとは…。じゅるじゅる。

「この際データが吹っ飛んだのはどーでもいいの！ 今大事なのは
弟くんが泣いてることよ！」

カッコ良く決めてるけど、弟くんを抱きしめてハアハアしてるの
には目を瞑ってほしい。ついでに、泣かせたのはオマエだろうとい
うツツコミも勘弁してほしい。

「ホントにお姉ちゃんは弟大好きねえ」

「勿論よ！ 悪い！？」

言っておくけど、私はショタコンじゃないわよ！ 私が好きな
のは弟くんだけなんだから！

「悪くないわよお。さて、邪魔者は退散しましょうねえ」

ハアハア…これで弟くんと2人きり…ハアハア…

「ハアハア…」

・・・

「しまったあ！ 何か上手いこと逃げられた！」

流石お母さん。やってくれるわね…。

「まあそれはいいわ。弟くん、一緒にゲームする？」

「でも、データが…」

そんなにシユンとしなくても大丈夫よ、弟くん。

「こんなこともあるのかとバックアップをとっておいたのよ！」

さっすが私！ 私、やればできる子！

「よし、じゃあ今度こそ最後までクリアするよ」

てことで、スイッチをぽちつとな。

「さて、弟くんは誰にする？」

「勇者がいいなあ」

勇者の弟くん…。捕らわれのお姫様はやっぱり私…

『姫を離せ!』

聖なる剣をその手に握って魔王と対峙する弟くん。

『その望み、叶えたければこの私を殺すしかないな』

邪悪な笑みを浮かべて玉座から弟くんを見下ろす魔王。

『望むところ!』

激しい攻防が繰り広げられ、遂に魔王は弟くんに敗れる。

『姫、ご無事ですか? さあ、国へ帰りましょう』

私をお姫様抱っこして素敵な微笑みをくれる弟くん。

『国王、今戻りました』

国に帰ると弟くんは魔王を倒した英雄として迎えられ、パーティーが始まる。

『姫、私と共に踊って下さいますか?』

私の前に跪き、手を差し伸べる弟くん。もちろん私はその手を取って一緒に踊る。至福の一時。

『姫、こちらへ』

そのまま人ごみに紛れて2人でパーティー会場を抜け出し、その

後…

「むっふあっ！」

「どうしたの！？ お姉ちゃん！」

いかん…興奮しすぎて鼻血が…。

「お姉ちゃん！ 大丈夫！？」

しかし、鼻血ってホントに吹き出すんだ…。身を持って体験してしまうとは。

「大丈夫よ、弟くん。あと、悪いんだけど掃除するからバケツに水汲んで雑巾持ってきて」

「うん。わかった。ちょっと待っててね」

私の言うことに健気に従う弟くん…

ギザカワユス。

「ヤバイ…思考が古い…」

もはや死語だ。

「さて、鼻血垂れ流しはマズいなあ」

ドクドクと、止め処なく、捻った蛇口の如く、溢れ出てます。こんなに出たら私死ぬんじゃない？

「もしかしくなくてもヤバい？」

とりあえず寝転がって、脚を上げてみよう。

そして深呼吸。吸ってー、吐いてー、

「げげごぼっおえ」

吐血！？ ついに末期！？ まあ、深呼吸したら口に鼻血を吸い込んでただけなんだけど。あれ？ もしかして私結構余裕ある？ 何かいつの間にか鼻血止まってるし。でも床に軽い血だまりができてるね。

「弟くん遅いなあ」

遠くから弟くんの声が聴こえる…。死因は出血多量かなあ。

『お母さん！ 何処にいるの？！ お姉ちゃんが！』

弟くん、バケツと水と雑巾だけ持ってきてくれればいいのよ。お母さん呼ばなくても大丈夫だから。早く持ってきてー。

「でも可愛いから許す！」

力んだら頭がフラツときたよ。

「お姉ちゃん頭押さえてどうしたの？ 大丈夫？」

やっと戻ってきてくれたね。愛しの弟くん。

「お姉ちゃんの頭はいつでもお熱ダヨ」

「お姉ちゃん熱あるの？」

そんな心配そうな顔を近づけないでえ…。弟くんのひんやりした手が

「（・・）イイ！」

これはヤバイですよ。貧血で弱つてるところに弟くんは刺激が強すぎますよ。天然ジゴロは恐ろしいですよ。でも弟くんは可愛いですよ。

「ハアハア…」

弟くんがこんな近くに。

「ちょっと熱いなあ。息も荒いし、寝てた方がいいんじゃない？」

「iiiiiiii一緒に寝てあげてもいいわよっ！」

あれ？ 私トウンデレですか？ 伝説の3：7トウンデレですか？ そうなると天然系田舎派幼なじみと弟くんを取り合うことに？

「一緒に寝て欲しいの？ いいけど、先にここを片付けてからじゃないと。後で行くからお姉ちゃんは寝てて」

ママママママジっすか！？ 本気！？ 本当！？ マジっすか

！？

「ハアハア…じゃあ先に…ベッドに…行ってるからね…」

ヤバイ！ お母さん！ 私、大人の階段登っちゃうよ！ うはー！
興奮してきた！ さっきから興奮してた！ ああ…血が足りない…。

「あ」

何か蹴った。

「あ」

ゲーム機踏んだ。

「ああ…」

ゲーム機が…

「潰れた…」

踏み潰してしまった…orz

「最近のゲーム機って薄型だよねえ」

オワタ。

ゲーム機オワタ。

「弟くん。私も掃除するよ」

「うん」

それは永遠に終わらないLoopの物語。
始まって、途中からまた始まりに戻る物語。
終わりはいつ訪れるのか。
そもそも、終わりはあるのか。

しかし、ここに一つのループがひとまずの終わりを迎えた。
彼女がゲーム機を踏み潰すという結末で。
彼女曰わく、

『ははは、見る。ゲーム機がゴミのようだ』

だそうだ。

ダメだ。

この姉早く何と

か出来ないネ。

おしまい
ノシ

（後書き）

評価・感想いただけると春野が跳んで喜びます。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2970h/>

るう～ぷL P

2010年10月10日07時49分発行